

歴史的町並み景観が観光需要に及ぼす影響

Influence of Historical Townscape on Tourist Demand

佐藤徹治研究室 0524005 青柳裕樹 0524225 中村準

1. 背景と目的

2004年の景観法の施行により、各自治体では良好な景観形成への意識が高まりつつある。さらに、伝統的建造物群保存地区制度や2008年11月施行の歴史まちづくり法によって、歴史的な集落や町並みの保存と整備、歴史的風致を活かした町並みを支援していく取り組みが数多く行われ始めてきた。また、2007年の観光立国推進基本法の施行により、少子高齢化が進む中、訪日外国人を誘致し観光を経済や地域社会を支える新しい柱にする動きがある。

本研究では、日本の中で歴史的町並みが残り、環境や景観整備を行っている地区を対象に、歴史的町並み景観が観光需要にどのような影響を及ぼしているかを分析し、今後の歴史的町並みの整備方法や観光振興策の指針を得ることを目的とする。

2. 研究方法

2-1 対象地域

歴史的町並み景観のうち関東地方に比較的多く残る蔵の町並みに焦点を当て、埼玉県川越市と栃木県栃木市の2地区を対象地域とする。

2-2 研究手順

研究手順は、以下の通りとする。

- ①観光動向の実態分析
- ②歴史的町並みの指標化
- ③歴史的町並み景観が観光需要に及ぼす影響の検討

3. 観光動向の実態

対象地域における1989年から2007年までの入込観光客数の推移を図-1に、条例・規制と整備事業の事例を表-1に示す。

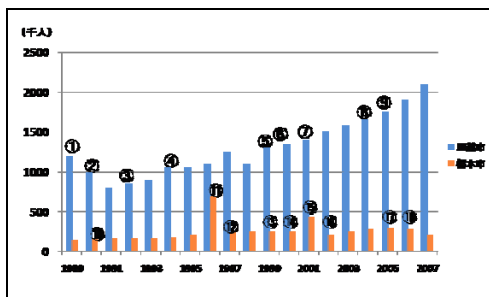


図-1 入り込み観光客数の推移

注) 川越市:重要伝統的建造物群保存地区内の観光客数
栃木市:歴史的町並み内の観光客数

表-1 条例・規制と整備事業の事例

	川越市	栃木市
1989	①川越市景観条例施行、観光市街地形成事業(1993まで)	
1990	②歴史的地区環境整備街路事業開始	⑩栃木市歴史的町並み景観形成要綱制定、栃木市歴史的町並み景観形成補助金交付要領制定、大通りシンボルロード整備事業(1996まで)
1992	③一番街通り電線類地中化事業、養寿院門前通り線整備	
1994	④川越市町並み改装事業(1998まで)	
1996		⑪ウォーキングトレイル事業(2000まで)
1997		⑫大通り電線共同溝整備事業着手
1999	⑤伝統的建造物群保存地区指定、重要伝統的建造物群保存地区選定、中央通り線の幅員を縮小	⑬中心市街地商業活性化事業、コンセンサス形成事業
2000	⑥行伝寺門前通り線整備	⑭歴史的町並み景観形成地区を嘉右衛門周辺に拡大、大通りシンボルロード完成
2001	⑦鐘つき通り線整備	⑮街並み環境整備事業<例格後通り>(2010まで)
2002		⑯街並み環境蔵の街案内板整備事業(2007まで)
2004	⑧川越十カ町地区を都市景観形成地域に指定	
2005	⑨寺町通り線整備(2007まで)	⑰街並み環境キュービクル修繕事業(2006まで)
2006		⑱とちぎ山事会館前広場整備事業

図-1より、川越市では1999年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されて以降、整備事業も平成元年から徐々に進んでおり、入込観光客数が年々上昇している。一方、栃木市においては、川越市同様いくつかの整備事業が行われてきているが、入込観光客数の増加は非常に小さい。

4. 歴史的町並みの指標化

4-1 概要

歴史的町並み景観を構成する要素には、建物の高さ統一や電柱の地中化など多くの要素が考えられる。

本研究では、歴史的町並み景観の価値要素を抽出したものを1~5点で点数化し、各要素の重み付け平均を取ったものを歴史的町並み指標とする。各要素のウェイトは、アンケートにより決定する。

4-2 歴史的町並み景観の価値要素

歴史的町並み景観の価値要素と、各要素の点数基準およびウェイトの試算結果を表-2に示す。

表-2 歴史的町並みの価値要素

	点数基準	ウェイト (%)					
		5	4	3	2	1	
町並みの高さが揃っている	伝統的建築物の高さの変動係数	0	0~0.05	0.05~0.1	0.1~0.2	0.2~	5.9
町並みの色彩が揃っている	伝統的建築物の壁と調和していない不調和面積比率(%)	0	0~2.5	2.5~5.0	5.0~7.5	7.5~	7.7
町並みの材質が揃っている	伝統的建築物の材質と調和していない不調和材質面積比率(%)	0	0~2.5	2.5~5.0	5.0~7.5	7.5~	4.8
広告や看板が伝統的建築物と調和している	広告・看板の面積比率(%) *注2	0~10	10~20	20~30	30~40	40~	6.1
伝統的要素以外のものが見えない	電線・電柱地中化延長比率(%)	100	66~100	33~66	0~33	0	4.8
	近代的建築物の面積比率(%)	0	0~1.5	1.5~3.0	3.0~4.5	4.5~	6.4
	建築設備(空調設備など)が見える面積比率(%)	0	0~3.3	3.3~6.6	6.6~9.9	9.9~	3.4
	ガードレールが見える面積比率(%)	0	0~1	1~2	2~3	3~	2.2
歩道が整備されている(石畳など)	歩道の石畳延長比率(%)	100	66~100	33~66	0~33	0	12.5
自然的要素がある	水の面積比率(%)	14~15	10~14	5~10	0~5	0、15~	7.5
	緑の面積比率(%)	30~	20~30	10~20	0~10	0	12.0
通りに車が通らない	1分あたりの車の交通量(台)	0	0~5	5~10	10~15	15~	24.0

*注1 A~B(A以上B未満) *注2 暖簾は除く

4-3 対象地区の歴史的町並み指標の推移

図-3に、表-2のウェイトの試算結果を用いた川越市および栃木市の対象地区における歴史的町並み指標の評価点(100点満点)の推移を示す。

川越市の歴史的町並み指標は、1989年から1993年まで行われた観光市街地形成事業や1990年開始の歴史的地区環境整備街路事業、1992年の一番街通り電線類地中化事業などの影響で、評価点は1989年から年々上昇している。

栃木市の指標は、1996年に急激に上昇したが、これは1990年に行われた大通りアーケード撤去に加え、大通りシンボルロード整備事業、巴波川綱手道事業がこの年に終了した影響と考えられる。

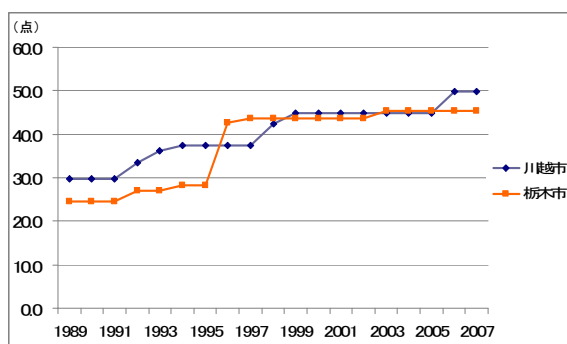


図-3 歴史的町並み指標の推移

5 観光需要モデルの構築

5-1 モデルの定式化

ある地域の観光需要は、一般的には地域の魅力の他、対象地域までの平均的な所要時間や所要費用、PR度等に左右されると考えられる。

本研究では、対象地域の魅力を表す変数として上述した歴史的町並み指数を用いる。

対象地区の観光需要モデルを(1)式に示す。

$$N_j = \alpha + \beta_1 H_j + \beta_2 T_j + \beta_3 C_j + \beta_4 DUM1 + \beta_5 DUM2 + \beta_6 DUM3 + \beta_7 DUM4 \quad (1)$$

ここで、 j は地区を表す。 N は入込観光客数、 H は歴史的町並みの評価点、 T および C は対象地区までの平均所要時間および平均交通費用、 $DUM1$ は重伝建指定ダミー (1999年: 1、その他: 0)、 $DUM2$ はホームページ開設ダミー (開設済み: 1、未開設: 0)、 $DUM3$ はイベント開催ダミー (開催年: 1、その他: 0)、 $DUM4$ は整備完成年ダミー (1996年: 1、その他: 0) を表す。

5-2 パラメータ推定

パラメータ推定は、各対象地域の時系列データを

用い、最小自乗法により行う。

なお推定は、(1)式の全部または一部の説明変数を用いたモデルについて検討し、符号条件をすべて満たし、かつ t 値が一定条件 (10%有意) 以上のもので、自由度修正済み決定係数が最も高い値を採用する。採用されたモデルの推定結果を表-3に示す。

表-3 パラメータ推定結果

	定数項	係数			決定係数
		町並み指標	所要時間	イベントダミー	
川越市 (n=19)	2,394,845	16,339 (2.08)	-17,540 (-4.91)	-	0.885
栃木市 (n=19)	33,228	4,889 (3.77)	-	42,094 (1.63) / 406,710 (7.76)	0.879

注) ()内は t 値

イベントダミー (とちぎ秋まつり開催年ダミー)

: 1 (1991, 1996, 2000, 2001, 2003, 2006)、0 (その他)

整備完成ダミー: 1 (1996)、0 (その他)

各説明変数について、有意なパラメータ推定結果を得ることができた。基本的に歴史的な景観形成、所要時間が観光需要に影響を与えていることが分かる。栃木市においては、イベント (とちぎ秋まつり開催年) や整備完成ダミーも観光需要に正の影響を与えており、イベントや整備の完成が需要増加に一時的に寄与していると言える。

5 まとめと今後の課題

本研究では、歴史的町並み景観を総合的に評価する「歴史的町並み指数」を提案するとともに、川越市および栃木市の歴史的町並み地区の観光需要動向を説明する観光需要モデルの構築を行った。モデルのパラメータ推定結果より、観光需要には所要時間と歴史的町並みの景観形成が大きく影響を与えていることが示唆された。

今後の課題として、対象地域の過去の写真や観光客の居住地別出発地を市町村単位の詳細なデータを収集することによる評価システムの精緻化と観光地選択モデルの構築が挙げられる。

参考文献

- 1) 川越市 (2008): 川越市観光アンケート調査報告書
- 2) 川越市教育委員会 (1976): 蔵造りの町並 -川越市伝統的建造物群に関する調査報告書-
- 3) 西野至、西井和夫、北村隆一 (2000): 観光地周遊行動を対象とした複数目的地の組み合わせ決定に関する逐次的モデル、土木計画学研究・講演集、No. 17、pp. 575-581
- 4) 西野至、宮島俊一、西井和夫 (2001): 複数目的地を訪問する観光客の目的地訪問順序に関する一考察、土木計画学研究・講演集、No. 24、pp. 613-616